

日高村校務DX計画

【計画の背景・趣旨】

GIGAスクール構想により、児童生徒1人1台端末と高速大容量の通信ネットワークの一体的な整備が進められる中、令和5年3月の「GIGAスクール構想下での校務の情報化の在り方に関する専門家会議」の提言において、今後数年かけて校務系・学習系ネットワークの統合と次世代の校務支援システムの整備を行うとともに、クラウドツールの積極的な活用による負担軽減・コミュニケーションの活性化を推進すべきとされています。また、同年8月に中央教育審議会「質の高い教師の確保特別部会」で取りまとめられた「教師を取り巻く環境整備について緊急的に取り組むべき施策(提言)」でも、汎用クラウドツールを活用した教職員間での情報交換の励行や会議資料のペーパーレス化、民間企業向けクラウドツールの転用による校務処理の負担軽減、スケジュール管理のオンライン化や、学校と保護者間の連絡手段の原則デジタル化等が提言されました。

これを受け、本村においても教育DX推進に向けて、「日高村校務DX計画」を策定することとします。

【本村における校務DX推進状況】

※GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト～学校・教育委員会の自己点検結果参照(R5.9.29～R5.11.2実施)

日高村の各校では、保護者からの欠席連絡や保護者へ発信するお便り・配布物等を発信する保護者連絡アプリを令和5年度より開始するとともに、チャットやクラスルームを用いて職員室と教室間でのやり取りを実施するなど各種デジタル化・オンライン化を進めているところです。今後もデジタル化及びペーパーレス化を積極的に進め、業務の改善化を図っていくため、「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」による自己点検結果等も踏まえつつ、以下のとおり校務DX化における課題を踏まえ、校務DXに向けた検討を進める。

【校務DXにおける本村での課題と今後の計画】

本村においては以下の課題と計画があげられる。

① 押印・FAXの見直し及び校務支援システムへの手入力作業の一掃

現在、推進状況でも述べたとおり、ペーパーレス化は進めているものの、押印を伴う文書については紙ベースでのやり取りが多く、事務作業の負担となっている。また、本村ではすべての学校でFAXを活用している。対策として公印をデジタル化する事により、紙ベースではなく電子でのやり取りを可能とすることで、事務作業の負担軽減を図り、今後、押印・FAXについて制度・慣行の見直しを検討していく。また、各種調査の回答や会議資料等におけるペーパーレス化を推進するとともに、手入力作業の削減による教員の負担軽減に努めていく。

② 校務における生成AI

村内各校において生成AIにおける周知や理解がまだ進んでおらず、生成AIの活用はされていない状況である。今後、生成AIがもたらす効果等について周知を行うとともに理解を図り、会議資料や練習問題の叩き台作り等生成AIがおこなうことによって、教員一人ひとりの負担軽減や働き方改革に繋げられるよう取組を進めていく。

③ 教育ダッシュボード

現在、デジタルドリルや気持ちメーター等の学習データや校務データは集約されておらず、一つ一つページを開き確認しているため、作業負担の一つとなっているが、教育ダッシュボード一つにまとめる事ですべての情報を一度に閲覧でき、負担軽減に繋げることができる。けれども、教育ダッシュボードにする事で、今まで蓄積されたデータが見られない可能性があるため、慎重に検討し進めていかなければならない。

④ 次世代の校務支援システムの導入

高知県内で統一した校務支援システムを導入していることから、今後も高知県内の自治体と足並みをそろえ、次世代の校務支援システムの検討及び導入を進める。